

平成29年度 たまの版CCRsea懇談会 第2回会議 議 事 概 要

日 時	平成 30 年 2 月 19 日 (月) 13 : 30 ~ 15 : 00
場 所	玉野市役所 3 階 特別会議室
出席者 (敬称略)	<p>【委 員】</p> <p>学校法人加計学園玉野総合医療専門学校介護福祉学科長 五嶋 幹雄 玉野市医師会 会長 渡邊 正俊 社会福祉法人玉野市社会福祉協議会 総合福祉課 (代理出席) 石東 丈典 玉野商工会議所青年部 直前会長 岡崎 晋典 公益社団法人玉野市観光協会 専務理事 池田 敦子 うのづくり実行委員会 実行委員長 森 美樹 UNOICHI 実行委員会 営業部長 福嶋 栄里子 公募委員 木下 雅行 公募委員 岡崎 文代</p> <p>【オブザーバー】</p> <p>一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 代表理事 京谷 潤</p> <p>【事務局・委託業者】</p> <p>玉野市 政策財政部 部長 加藤 翔大 政策財政部総合政策課 課長 中嶋 英生 政策財政部総合政策課 参事 小笠原隆文 政策財政部総合政策課行政管理室 室長 山平 智宏 政策財政部総合政策課 主任 佐藤 健介 産業振興部 部長 尾崎 敬一 産業振興部商工観光課 係長 三宅 敦士 産業振興部商工観光課 主事 佐々木裕介 株式会社日本総合研究所 中山紗央里</p>
配布資料	<p>資料 1 たまの版生涯活躍のまち (CCRsea) 基本計画 (案)</p> <p>資料 2 基本計画 (案) 概要説明資料</p> <p>モニターツアーについて</p>

議 事

1. 開 会

2. 開会あいさつ

3. 議事

・事務局より、下記についての資料説明あり

① たまの版生涯活躍のまち（CCRsea）基本計画（案）

② 基本計画（案）概要説明資料

→ 質疑は以下のとおり。

A 委員 ; 「ヘルスツーリズム認証基本プログラムの開発」という項目の中で、健康増進および維持、疾病予防等につながる健康コンテンツを主軸としたヘルスツーリズムの企画および実施を行う、とある。本来、生活習慣病の予防や改善に向けた取り組みは生涯をかけてやるものであり、ツーリズムのような単発の取り組みでは効果はないのではないかと。同じ人に何度もサービスを提供していくのか。

事務局 ; ヘルスツーリズム認証基準は経済産業省によって公表されている。認証レベル1では「健康に対する気付き」、認証レベル2では「生活習慣改善意欲の向上」、認証レベル3では「生活習慣の改善及び健康増進」というように、認証のレベルが高くなるにつれて参加者へのフォローアップ等も合わせた取り組みとなっている。まずは健康に対する気付きを与えられるようなプログラムとすることを目指すが、旅に来るだけでなく、自宅に戻ってからも続けられるような取り組みを検討していきたいと考えている。

A 委員 ; 生活習慣病の対策の一番は栄養指導である。県でも栄養指導の対策はなされているので、そういったところと共同でやっていただけると非常に助かる。これからの高齢社会、人口減少に向けて、医療、介護、行政を含めた多職種連携の地域包括ケアシステムを構築してきているところだが、行政だけではなく市民も含めたみなさんが協力していく必要がある。玉野市の特定健診の受診率が低いのはなぜか、その原因をつきとめて、その点に対してインセンティブをうまく活用するということも考えられる。既に実施されている各種事業をステップアップさせて、市民にとって魅力的なものにしていく必要がある。

事務局 ; 委員のご意見のとおり、市としても、地域包括ケアシステムの推進や特定健診受診率の改善といった市民向けの取り組みも重要であると考えている。こ

の点について引き続きご相談させていただくとともに、連携させていただきたい。

B 委員 ; ローカルブランディング創出機能に関連して、既存の取り組みとして実施されている「お宝たまの印」との整合性をどう考えているのか。

事務局 ; たまの版生涯活躍のまちでの取り組みには健康という要素があり、既存の「お宝たまの印」では健康という要素は必須にはなっていない。ただ、両者のすみわけを検討する必要があるのかも含めて、今後整理していきたい。

B 委員 ; 現在、紫いもの生産者や加工業者を中心に、紫いもの消費を拡大していくような団体を立ち上げようとしている。こういった活動もローカルブランディング創出機能との連携を検討していただきたい。

また、みやまの野菜をもっとアピールしたいと考え、フラワーアレンジメントに野菜を入れた野菜のブーケを開発した。先日の道の駅みやま公園祭りで展開したり、荘内地区の花屋と連携し、完全受注生産性での事業化を検討している。こうしたみやまならではの野菜や花卉の取り組みも取り入れてほしい。

「体験型観光コンテンツに関する情報発信と予約販売の仕組の構築」についてだが、既存のアクティビティについて、現在、ホームページ等で情報発信をしているが中々集客ができない。インターネットから予約を入れていただく仕組みを作っても、インターネット経由の予約の実績がかなり少ない。たまの版生涯活躍のまちの取り組みでは、こうした予約販売の仕組みをどう機能させていく想定か。

事務局 ; 事業推進主体のノウハウを活用していくことを考えている。新たなホームページを立ち上げて予約を受け付けることを想定しているが、そのホームページに例えば渋川地区で実施されているようなビーチアクティビティを掲載していきたい。今は電話よりもインターネットからの予約が主流であるので、玉野市で体験できる健康コンテンツを集約したサイトを立ち上げ、一括して予約ができるようなシステムを構築しようと考えている。

また、そうしたサイトにアクセスする人たちがどういう人なのか、海外からなのか、国内であればどの地域からなのか、といったような情報を、マーケティングに活用していくノウハウを事業推進主体が持っている。情報にもとづいて宣伝広報していくことも今後考えていきたい。

どういったコンテンツを掲載していくかについては、引き続き相談させていただきたい。

- A 委員 ; 観光客数のデータについて、瀬戸内国際芸術祭のことを考えると、宇野港周辺にはもっと観光客がいるはずではないか。
- 事務局 ; 宇野駅から宇野港へ移動し、そのまま直島等へ移動する人はカウントされていないため、そうした人数となっている。
- A 委員 ; つまり玉野市は通過されているだけ、ということだが、それはなぜなのか。玉野市には風光明媚な場所が数多くあるのに活かされていない。それは残念であり、何とかしなければならない。
- 事務局 ; これまでは情報発信が不十分だったのではないかと考えている。たまの版生涯活躍のまちで構築する情報発信の仕組みに期待している。いいサイトとなるよう、コンテンツを含めて開発していきたい。
- A 委員 ; 海外からのクルーズ船が宇野港に停泊することもあるが、旅行者は玉野市内へは来ず、船の中に留まっている。クルーズ船を歓迎する取り組みを実施されているが、玉野市経済へのメリットはないようで残念に思っている。
- 事務局 ; クルーズ船の旅行者は、船を降りてすぐ倉敷へ行ったりと、ここでも玉野市は通過点となってしまっている状況がある。アクティビティや移動手段も含めて、玉野市で周遊できるオプションの開発も必要になってくると考えている。もったいないという認識は市としてもあるため、なんらかの取り組みを実施していきたい。
- A 委員 ; 移住者を増やしていくために、何をしていけばよいか。実際に玉野市に移住された方は玉野市の何に魅力を思っているのか。
- C 委員 ; 移住者は自然が豊かである、交通の利便性がよい、子育てがしやすいなど、玉野市の生活環境等を総合的に判断して来られる。生活環境に加え、市民による、移住者を受け入れる体制づくりを大事にしたいと考えている。生活環境もそうだが、玉野市に住んでいる人に惹かれた、という話も移住者から聞いている。玉野市に住む人が前向きに生きている姿が見えることは、移住を検討している人に対して、よい印象を与えることができる。
また、移住をする前だけでなく、移住した後も、例えば医療、イベント、町内会といった様々な地域の情報にアクセスしやすい環境が重要だと考える。今は市民との間に少し距離感があるように感じている。たまの版生涯活躍のまちの取り組みについても、自分はこうした懇談会に参加することで、関係者の努力を知ることができているが、多くの市民はおそらくこの話をほとん

ど知らない。市民も参加し、一緒にまちを作ることが大切ではないか。そうすることで自分の健康も意識することができ、外から来た観光客や移住者への声かけもかわってくるだろう。そういった底上げのような取り組みができるといいのではないか。

A 委員 ; 情報を共有していくこと以外で、若い移住者を増やすための取り組みのポイントはあるか。

C 委員 ; 市民側の、移住者を受け入れる体制が整っていないと感じることはある。一部だが、外から来た人をあまりよく思わず、よそ者、と見る人がいる。地域の外から来た人と、地元市民が得られる情報には差があると感じている。だが、それは仕方がないことでもあり、自分の場合は地域の方々にお問い合わせしながら少しずつ情報を得ている。この点を市民が認識して、今後改善していくとよいのではないか。

D 委員 ; 移住者をよそ者と見るのはどういった世代の人か。そういった点を改善していくことができるとよいが、どうしていけばいいのか。

E 委員 ; 例えば、ある地区に昔から住んでいる人は、たとえ玉野市内からの転居者であってもよそ者と見ることがあると聞く。こういった地域性はあるが、玉野市内のどこに行っても移住者を受け入れていけるよう、市民の考え方を変える必要もあるのではないか。

C 委員 ; 玉野市の全員が歓迎している、ということだけでなく、同じ場を共有するものとして、互いにより生活ができるような関係が築ければいいのではないか。

E 委員 ; 先日モニターツアーに参加した。ツアーには東京等から若い人も参加していて、「玉野市は山あり、海ありのいいところだ。ぜひ住んでみたい。」と話していて驚いた。ただ、情報が不足しており、モニターツアーには申し込んだものの、そもそも玉野市は何県なのかわからず、玉野市までどう行けばいいのか迷ったと話していた。これだけいいところがあるのだから、もっと情報発信していかなければならない。

C 委員 ; 地域外の人に玉野市を選んでもらうために、まずは、玉野市がある、ということを知ってもらうことが必要ではないか。

F 委員 ; モニターツアーに自分も参加した。同じ参加者の中に雑誌のライターがいて

話をしたが、「今まで玉野市を知らなかった。こんなにいいところなのか。たまの湯もととてもいい。こんなにいいところなら関西から十分集客できる。」と言われた。「今まで雑誌で温泉特集を組んでも、たまの湯は掲載されていない。売り出し方によっては玉野市に人は来る。ぜひ特集させてほしい。」とも言われた。

別の参加者で東京から来た人と話すと、東京からのアクセスは悪いが、茶屋町で電車を乗り継ぐ際の、駅のひなびた感じがまたいい、と言っていた。様々な人と話して感じたことは、玉野市の見所についての情報が少ない、ということである。玉野市のホームページもそうだが、工夫がほしい。わかりやすく玉野市を伝えること。知ってもらって体験してもらうこと。それが今回のたまの版生涯活躍のまちの取り組みの大事な部分ではないか。まず来てもらうための取り組みが必要だろう。

・事務局より、下記についての資料説明あり

③ モニターツアーについて

→ 質疑は以下のとおり。

A 委員 ; 生活習慣病予防対策を対象としたプログラムとなっているが、2日間の食事等で、参加者に内容は理解してもらえたのか。

事務局 ; このツアーへの参加をきっかけとして、普段の食生活を見直してもらう、ということである。

E 委員 ; 実際にツアーに参加して食事をとったが、1食あたり600キロカロリーで設定されていた。まず、600キロカロリーでこれだけ豪華な料理ができるのかと驚いた。また、玉野市の食材が使われていたが、市内に住んでいても知らなかったものも多く、とても勉強になった。

A 委員 ; それはよい取り組みである。もっと市民に広げるとよいのではないか。

E 委員 ; 基本計画(案)に、玉野版健康マイレージ事業の特典についての話があったが、こういったツアーへの参加補助でもいいのではないか。

東京からの参加者に参加動機を尋ねたところ、ジムで運動器具に向かうよりは、自然を見ながら体験できるというところがいいと思った、ということであった。

- A 委員 ; 料理教室のような形で市民向けに実施してもいいのではないか。そうすることで特定健診の受診率向上や医療費の削減につながることを期待できる。
- 事務局 ; 今回はツアーとして様々な取り組みをパッケージ化して提供したが、コンテンツを切り出し、体験できるようにすることも検討していく。
- E 委員 ; モニターツアーでは、市内に住んでいてもこれまで知らなかった面白い取り組みがたくさんあった。海に向かって朝日を浴びながらヨガやストレッチをするといった、玉野市の気候を活かした取り組みをもっと宣伝して、市民や市外の人に体験してもらおうとよいと思う。
- F 委員 ; 今回は玉野市の良さを検証するため、モニターツアーとして実施した。これを今後全てパッケージとして販売するのではなく、コンテンツ別に販売することも考えられるだろう。玉野市がすごいと思ったのは、例えばビーチテニスにしても砂浜に既にコートがあり、楽しんでいる人がいる。これを活用しない手はない。朝起きて朝日を浴びる、これだけで健康的な気持ちになる。ふと目を向けるとそこにすばらしい景色が広がっていて、それだけでも玉野市はいいところだと感じる。加えて競輪のような玉野市ならではの体験ができて、モニターツアー参加者も楽しんでいた。
- 今回のモニターツアーは完成形ではない。これからは参加型の旅行が主流になる中で、事業推進主体のノウハウも活かしながらよい企画を作っていくことができるだろう。こうしたことを繰り返す中でみつけた、いいな、と思う玉野市を地域の内外に発信していくことで、すぐに移住に結びつかなくとも、まず行ってみようと思ってもらうことが大切である。
- G 委員 ; 基本計画（案）に記載されている玉野市の現状・課題を見て、玉野市はかなり危機的な状況なのだと改めて感じた。自分もまわりを見ても、例えば高校の同級生のほとんどが現在市外に出ていて、玉野市に住んでいない。
- 機会があり、同級生に対して、今後の玉野市に期待することや、まちの活性化のためのアイデアを尋ねたところ、様々な意見が聞かれた。もっと幅広い世代の人に意見を聞いていく場があるといいのではないか。
- F 委員 ; 今若い人はインターネットが中心で、テレビは見ないと聞く。今までのような形ではなく、情報がうまく伝わるように方法を工夫する必要がある。
- 多世代から意見を集めることも大切だろう。
- 大事なことは、現実的に何ができるのか、を考えることである。例えば玉野市で夜に飲み会をしたくても、岡山方面へ帰る人が多い中、岡山行き最終電車の発車時刻が早すぎるために開催できないということがある。その際、

終電時間を遅らせることは難しいが、代替でバスを走らせることは検討できるかもしれない。

情報をどう伝えていくか。玉野市の特徴をどう出していくか。健康で安心できるまちのイメージをどう作っていくか。モニターツアーの反応は良かったので、内容を検証し、いい取り組みとしていければと思う。

4. その他

- ・事務局より、次の3点について報告あり
 - 本懇談会および現在実施中のパブリックコメントの内容を踏まえ、基本計画（案）をとりまとめる。
 - 市民との意見交換の場について、3月上旬をめどに開催を検討する。
 - 第3回懇談会を3月26日に開催する。

5. 閉会

以上